



聖路加  
チャペル  
ニュース

2015年6月28日 No.238

〒104-0044  
東京都中央区明石町10-1  
聖路加国際大学礼拝堂

TEL 5550-2416 (日曜)  
TEL 5550-7043 (平日)  
FAX 5550-7070  
E-mail: chapel@luke.ac.jp  
URL: <http://nssk.org/tokyo/church/luke>



ブリ・デュー (祈祷台) の木彫「HAND OF GOD」

Photo by T.HOZUMI

聖書に学ぶ会

- 第1・第3木曜日 午前10時 新約聖書
  - 第2・第4火曜日 午後5時30分 旧約聖書
  - 第2・第5日曜日 午後12時30分 ロビーで語り合う会
- 場所…旧館2階 プライベートルーム/ロビー  
日程変更の場合があるため事前にご確認ください。

巻頭メッセージ

宣教の火である聖霊

礼拝案内

平日

■ 午前8時30分 朝の礼拝 トイスラーホール

水曜日

■ 午前8時30分 聖餐式 トイスラーホール

日曜日

■ 午前7時 聖餐式 トイスラーホール

■ 午前10時 日曜学校礼拝 チャペル

■ 午前10時30分 聖餐式・説教 チャペル

■ 午後5時 夕の礼拝 トイスラーホール

チャプレンメッセージ

# 宣教の火 である聖霊

司祭 ケビン・シーバー

火は燃えて存在し、教会は宣教して存在する。

逆に宣教していない教会はもはや教会とは言えない。宣教とは、NGOでもできる福祉事業ではなく、教会ならではの「行つて、すべての民を働かせる」。「行つて、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によつて洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい」(マタイ28・19-20)。分け隔てなくすべての人にイエス・キリストとその道を伝えることによつて、神の国を地上に実現する。これ以外の存在理由は教会にはない。

だから教会は目的ではなく手段に過ぎない。神はその独り子をお与えになつたほどに、教会ではなく世を愛された(ヨハネ3・16)。内向きになり、居心地のいい場所、知り合いだけを認めるクラブ、自らの最期の見送りの場だけを求めるのは主イエスに背くことになる。もちろん教会は、メンバーが赦され、癒され、養われ、隣人愛を実践する場所ではあるが、それはあくまでもキリストの手にある器になり、人を神の愛に導くためなのである。

手段と目的を混乱させてはなら

ない。多くの教会は「現状維持」のため、にどんどん金と時間とエネルギーを費やしている。もちろん維持はある程度大切だが、それを最終目的にしてしまうともはや「使徒からの……教会」ではなくなる。

では「教会」と言われ得るためにどうすればいいか。まず何よりも先に心をキリストに向け直し、聖霊の力により深く頼る必要がある。ぶどうの木であるキリスト、そしてその樹液である聖霊を離れては何もできないから。

内向きになり、「今まで通り」の状況に甘んじ、イエスの器としての使命を果たしていないことを懺悔しつつ、それにも拘らず神さまが成し遂げてくださったたくさんの素晴らしきことに感謝すべきである。

また、宣教の火が教会で燃え続ける一つの鍵は、小さなグループにある気がする。イエスが世界を変えようと狙つて小さなコミュニティを立ち上げ、それに使命と方向性を与えて、聖霊を注がれた。

今、チャペルでは「聖職志願者見守りの会」を定期的に開いている。聖歌を歌い、聖書を読みその分かち合いをし、教会のあり方や神に仕える道について話し合つて祈っている。信徒だけで動いていて、司祭は関わっていないが、メンバーから伺うのは、自分たちの信仰にとっても大きな影響を与えられている、と。

これは特別目的があつてできたグループだが、同じような集まりはいくらでもできる。少人数で集まり、共に歌い、聖書を読み、祈り、聖霊の助けをもつて支え合うグループは宣教の最先端にもなれると思う。もし

求道者が参加すれば、言葉だけではなく肌でキリストの愛と聖霊の力を感ぜられる機会になり得る。

まことの神を知らない九割以上の日本人にとつて、聖霊に満たされ信仰に生きるわたしたちの証しがないければ、神の驚くべき愛に触れるチャンスがないかもしれない。そういう人たちに神の愛を伝える喜びを、聖霊さまがわたしたちに与えようとしておられる。